

研究紀要

第33号

絵画「Napping」	芸術科	堀之内 彩七	
はじめに	校長	福永 純一郎	
つながる, このまち in eimon ～栄門と鹿女子, 共に魅力再発見～	商業科	大木 美恵子	… 1
学習指導案			
「公共」	地歴公民科	荻田 英和	… 13
「数学」	数学科	西野 由泰	… 17
「保健」	保健体育科	本村 明美	… 21
「美術」	芸術科	堀之内 彩七	… 28
「子どもの発達と保育」	家庭科	大城 貞子	… 35
「家庭総合」	家庭科	水津 美幸	… 39
「ビジネス・コミュニケーション」	商業科	吉福 彩乃	… 45

令和5年3月

鹿児島女子高等学校



Napping (F100 2022)
第20回九州二紀展 奨励賞

眠りに落ちる瞬間の、夢と現実が混ざり合い、体がふわりと浮かぶような感覚を表現しました。泳いでいるベタは、絵の中をゆったりと流れる時間と少女の心のなかを表しています。この絵を見た人が、穏やかな気持ちで眠りにつけますようにという願いを込めて描きました。

この作品を制作するにあたって、新たな表現へ挑戦したり、多くの方からお言葉をいただく機会を得たりすることができました。自分自身にとって、多くの学びや気づきを得た作品となりました。

芸術科 堀之内 彩七

はじめに

校長 福永 純一郎

今年度もまた、2022年度の締めくくりとして、ここに本校職員の日頃の積極的な自己研鑽の一端を示し、研究紀要を発刊する運びとなりました。教師にとって不断の自己研鑽、自己啓発が極めて肝要であることを考えますと、この上ない喜びでございます。

今回は、本校職員の絵画を始め、商業科の研究発表、初任校研修やステップアップ及びパワーアップ研修における学習指導案などとなっております。

昨年度は、新型コロナウイルスの影響について触れさせていただきましたが、今年度はそれに加えて、ロシアのウクライナ侵攻についても掲載しなければなりません。現在、原油、天然ガス、小麦などの価格上昇や供給網の混乱がインフレ加速要因となるなど、世界経済の見通しを不透明にしています。また、東西冷戦終結後で初めての自由主義と権威主義の直接対決と位置付けられ、外交・安全保障面でも大きな転機となる可能性もあります。このように世界中が大きく混乱し、変わっていきようとしています。

その中で、学校教育においても、社会人として求められる能力が、従来の知識型から課題解決型へと変わり、新学習指導要領では4つのポイントが整理されました。①開かれた教育課程②育成を目指す資質・能力の明確化（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間力等」）③カリキュラム・マネジメント④「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善などです。

また、令和4年度から導入された観点別評価においては、特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価法について多くの学校が苦慮しています。この評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言等を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するというのではなく、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要となります。その方法として、生徒たちが自分の学習について振り返ることができるような問いかけや活動を取り入れてみる。また、自分の考えを書いてみたり、話してみたりする場を意図的に作る。さらには、他者と一緒に活動することで、自分の考えを他者と比べられるような場を作る。など、教員にはこのような指導の工夫が求められます。本年度からスタートした観点別評価については今後も日々研鑽していかなければならないと感じています。

最後に、寄稿いただいた先生方、編集等に当たられた先生方に対し、衷心よりその労をねぎらい、心からお礼を申し上げます。令和6年度には学校創立130周年を迎えますが、本校の伝統的で特色ある教育活動が女子高ブランドとして、今後も多くの皆様に尊敬され信頼されることを願うとともに、本校の更なる教育活動の充実・発展を祈念して発刊の言葉といたします。

令和4年度 第30回

鹿児島県高等学校生徒商業研究発表大会

つながる, このまち in eimon

～ 栄門と鹿女子, 共に魅力再発見～



鹿児島女子高等学校

発表者 竹下 伊織 竹下 七海

指導者 大木 美恵子

1, はじめに

これまで、経済調査部は栄門地域に伝わる「玉江ものがたり（紙芝居）復元」や地元のパン屋さん「otonari」と商品開発のコラボ等を行ってきた。社会貢献活動に取り組み、地域のお祭りや行事のお手伝いなど、栄門地域に根付いた活動が評価され、令和3年度には、下伊敷栄門町内会から「感謝状」を頂いた。



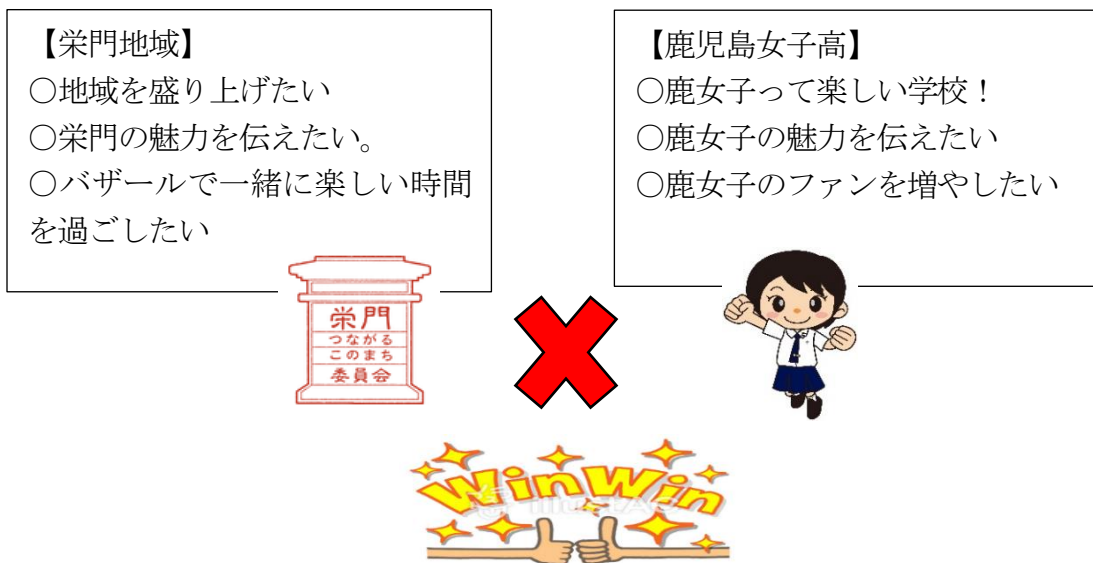
←感謝状贈呈式の様子

これらの活動は「otonari」店主の“坂口喜代美”さんとの出会いがご縁になっている。坂口さんは、下伊敷・栄門地域の商店街連盟「栄門通り会」が主催する“Eimon Park Bazaar”の実行委員長である。今年度、栄門の「つながる、このまちプロジェクト」に参加することになり、プロジェクトのメインイベントである「栄門パークバザール」の実行委員としてお手伝いすることになった。

鹿女子は今、生徒在籍数が減少している。平成27年から令和2年までのデータを見ると、定員割れが続いている。

一方、鹿女子の在校生に対するアンケートを見ると、学校に対する満足度は非常に高く、在校生や卒業生の評判は非常に高い。

運動部の活動がよく知られている鹿女子だが、ほかにもたくさんの魅力がある。文化部や家庭クラブの活動も広報して、新しい魅力を発信したいと考えた。



両者の想いがコラボしたら、大きな成果を生むのではないかと考え鹿女子の企画を考えることにした。

～栄門とは～

- 鹿児島市下伊敷にある地域。
- 小学校・中学校・高校のほかにも県立短大や聾学校等，多数の教育施設がある文教地域でもある。
- 1897年頃，旧日本軍（大日本帝国陸軍）の施設があり，兵営の表門「営門」があった。戦後，この地域を栄える町にしようと，地域の皆様が「栄門」と名付けられた。
- 「eimon park bazaar」を発案した坂口喜代美さんを中心に活気あるまちを目指す。
- 以前，賑いのあった栄門地域は，「8・6水害（1993年）・市電路線廃止（1985年）」などの影響を受けて，次第にかつての賑わいを失ってきた。



～栄門パークバザールとは～

鹿児島県鹿児島市の下伊敷栄門地域，“栄門公園”を中心に開催されるマルシェのこと。

栄門のまちを盛り上げるため，実行委員長である坂口喜代美さんを中心としながら，地域の人々が集い，買い物やワークショップを楽しめるイベント。



第3回 栄門パークバザールの掲げる目標は

「栄門のもつ可能性を最大限に活かし，

ひと・まち・歴史がつながることで活性化を目指す」

である。

～参加する目的～

経済調査部が今回参加する目的は、

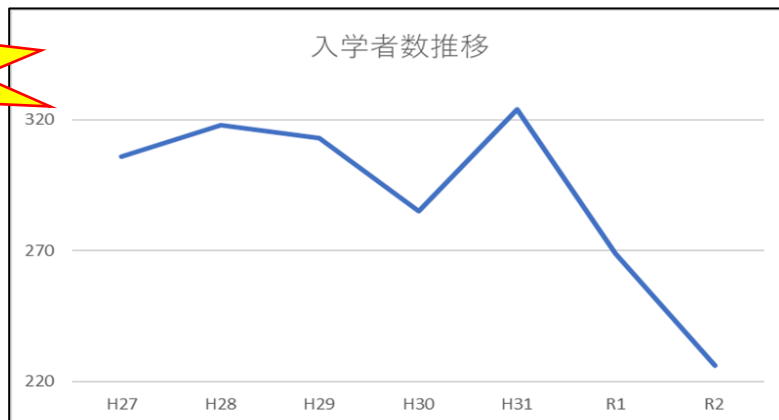
- 「**栄門の一員として、地域に貢献すること**」
- 「**鹿女子の魅力を、発信して売り込むこと**」である。

“つながる、このまちプロジェクト”の一員として、栄門地域の方々や来場者とのコミュニケーションを深め、**新たなつながりを探し、栄門の魅力発見**のためのマーケティングを行った。

鹿女子は、伝統ある音楽部のミニコンサートや、特色ある染織部や家庭クラブの手作り製品販売でバザールに参加することにした。また、経済調査部は、学校の案内パンフレット配布や、学科の特徴をまとめたパネル展示を通じて、学校のPR活動を行った。

～鹿女子の現状～

鹿女子といえば、“部活動”と言われるほど活動が盛んである。**体育系の部活動 13**、**文化系部活動 16**、**生産系の部活動 10**の団体があり、体育系だけではなく、箏曲部や民踊部などの珍しい部活動や**全国大会に出場している生産系部活動**もあり、多くの部活動が活気に満ちている。



令和4年度現在、入学者数の減少が危機的状況である。

鹿女子の学科は、**「生活科学科 (160)・商業科 (80)・情報会計科 (80)」(定員数)**であるが、平成31年に一度定員数に達した後、定員割れの一途をたどっている。

そんな問題を抱える鹿女子だが、在校生へのアンケート結果をみると「学校生活が楽しい！」と答える生徒が9割を超え、**入学後の満足度は非常に高い**。実際に鹿女子に入学すると、高い目標を持った先輩方や、同級生の活躍する姿に刺激を受け、それが憧れや目標になるなど、将来に大いに役立つということに気付くことができるようだ。



他では珍しい箏曲部や民踊部，茶道部や華道部など鹿女子の優雅さが出る部活動の様子。

2，仮説

栄門パークバザールに参加して，地域貢献活動と共に，鹿女子をPRすることで，

- 製品販売やミニコンサートを通じて，栄門パークバザールに賑わいをもたらし，会場を盛り上げることができる。
- 栄門の人たちに喜んでもらえる。
- 生き生きした鹿女子生の姿を通して，来場者に直接，鹿女子の魅力を発信することができる。
- 鹿女子のファンが増える。
- 鹿女子に入学したい！と思う人が増える。

と仮説を立てた。

3，企画

企画1：栄門パークバザールに参加した鹿女子生の思いを聞く

趣意：バザールの様子を詳しくまとめ，それぞれの取組についてこだわりを聞く。

企画2：栄門地域の新たな魅力を発見し，次回のバザールで活かせるものを探す

趣意：栄門を盛り上げるには，身近な魅力に私たちが気付きどう活かすかである。よって，新たな魅力を通して，人とのつながりを広げ，その魅力を多くの人に発信したい。

～目標～

- ① 今後，つながりを広げるきっかけとなる「新たな栄門の魅力」を探す。
- ② それぞれが持つ魅力について，地域と連携した「効果的な発信」について考える。



4, 実践内容

～実践内容 1～

今回参加した音楽部・染織部・家庭クラブ・経済調査部, そして実行委員長の坂口さんに事前に栄門パークバザールへの想いや, 自分たちの想いを聞くことが出来た。



音楽部

バザールのミニコンサートでは、
どのような想いで歌いましたか？

コロナ禍で、歌を聴いていただく機会が減っていたので、聴いている人たちに、心を込めて歌いました。

自分たちの歌を届けたい！応援してもらいたい！と想いながら歌いました。

音楽部のコンサートで、バザールの
会場に一体感が生まれました。

今後の目標は ありますか？

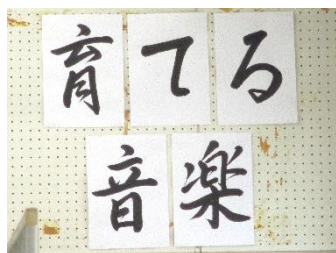
歌声を聴いている方に、歌や音楽を**「楽しんでもらうこと」**を目標にしています。

そして、活動の中で**「育てる音楽」**を大事にしています。

ずばり、合唱の醍醐味とは？

一人では、さみしくなる時もあるのですが、こうやって皆で歌うと仲間がいることは**大切**だなと思います。

同時に**表現の幅を広げ**ることが出来ます。



バザールのオープニングセレモニーでは鹿女子の音楽部が、ミニコンサートを開催した。用意していた座席は、あっという間に、たくさんのお客さんで埋まり、盛大な拍手や手拍子で会場に一体感が生まれた。

13時には、甲突川ほとりで二回目の公演を行った。川の水が流れる音と、音楽部の歌声が栄門地域に響き渡り、双方の魅力が活かされた素晴らしいコンサートとなった。

染織部

栄門パークバザールでは、どんな
想いで販売活動をしましたか？

手間暇をかけて作った製品に興味を示してくれると嬉しいです。

楽しく使って、日々の生活を華やかに彩っていただけたら幸いです。

今回販売した製品以外にも、
栄門地域に関連する他の植物で
染物は作れますか？

作れますよ。

玉ねぎやなす、他にも色素を持つお花であれば、花びら染めもできるので、染色技法は楽しいですよ。

今回、販売したのは、“レモングラス染め・藍染め・あかね染め”の3種類。ストールやバッグなど美しい色合いの製品が、バザールの会場をカラフルに彩った。



家庭クラブ

バザールで対面販売を通して、
感じたことはありますか？

お客さんとの**会話が楽しかった**。
直接、お客様の反応を見ることができ
興味を持ってくれたことが嬉しかった。

家庭クラブは、ポーチ・なべつかみなど実用性があり、買い求めやすい価格帯の製品を販売していた。丁寧に心を込めて手作りした製品は、あっという間に完売していた。



経済調査部

栄門パークバザールに参加して
何を感じましたか？

鹿女子の魅力を**直接アピール**することができた。

人と人のつながりが生まれるバザールのようなイベントは、地域が活気づくと実感した。つながりを深めることもできるので、これからも参加したい。

バザールの運営サポートをする
中で、大切にしていた思いは何ですか？

来場された方は、安心安全にバザールを楽しむことができるように、**丁寧な接客**を心掛けました。

鹿女子の魅力が伝わるように、私たち自身が**生き生きと輝いていることを意識しておもてなし**をしました。

鹿女子の学科紹介パネルを展示し、学校パンフレットを手配りした。

イメージキャラクター“かじょちゃん”のパネル設置。

来場したお客さんが心地よくバザールを楽しめるように丁寧なおもてなしを心掛けた。



実行委員長 坂口さん



バザール開催にあたって、
困難や問題点はありますか？

人手不足という問題はずっと抱えていますね。

さらなる地域活性化のため、
バザール以外の新しい企画があ
りますか？

今回初めて甲突川付近の方にも
お店を出すことができました。
夜の竹灯籠も好評だったので、
次回も甲突川に出し、**綺麗な夜景**
を作りたいと考えています。

栄門地域に対して、
坂口さんが掲げる目標は？

ゆくゆくは、わざわざ遠い場
所まで足を運ばなくても、買い
物を始めとした**生活が、地域の**
中で完結するような便利さを取
り戻したいです。

5, 実践結果

～企画1～

参加した鹿女子生が出したものをまとめ、想いを聞く

音楽部	聴いている人たちに、心を込めて歌いました。 手拍子や拍手を受けて、お客さんとのつながりを実感しました。
染織部	心を込めて染めた製品に、たくさんの人が興味を示してくれてうれしく 思いました。 直接、製品について説明することができたことや、その製品が売れた時 は、やりがいを感じました。
家庭クラブ	ポーチやマルチケース等の、日常で役立つ製品を対面で販売することが できて楽しかったです。 お客さんの生の反応が、次の作品制作のヒントになりました。
経済調査部	鹿女子生が、生き生きと活躍する姿をたくさんの人に見てもらえて、嬉 しく思いました。 点在する魅力を、バザールという一つの場所につなぐことができたと思 います。 鹿女子の魅力＝栄門地域の魅力 になることを実感しました。

～企画2～

栄門地域の魅力を発見し、次回のバザールで活かせるものを探す。

玉江小学生たちが先輩たちから代々受け継いできた伊敷長なすの栽培

⇒講師から育て方を教わり、苗を植え、一から全て地道に育てている。

探究活動の一環として、一人一人が課題を考え、なすを広める方法を学習している。

以前発見した、栄門の魅力は、栄門地域に伝わる「玉江ものがたり紙芝居復元」である。

この紙芝居「玉江ものがたり」は、明治10年頃の栄門地域の様子を描いたもので、昭和46年にこの紙芝居が作成され、語り継がれていた。

私たち経済調査部は、地域のこどもたちにこの栄門の歴史を受け継いでいく為、文章は変えずにイラストの書き換えを行い、こどもたちだけでなく、幅広い世代の人たちに興味を持っていただけるように工夫して、復元させることが出来た。



紙芝居の様子

今回発見した、新たな栄門の魅力は・・・

それは、玉江小学校で栽培されていた「伊敷長なす」という鹿児島県の郷土野菜である。

栄門パークバザールで、鹿女子の隣で玉江小学校の児童がブースを立てていたことで、伊敷長なすの存在を知ることができた。

「伊敷長なす」とは、伊敷地域で1965年まで盛んに栽培されていた鹿児島の伝統野菜。

しかし、次第に生育の早い品種に取って代わられた為、今では、あまり見る機会がない絶滅寸前状態となっている。

栽培に時間がかかることや生産者の高齢化が衰退の原因としてあげられる。

危機感を持った玉江小学校の児童が、地域野菜として復活の取り組みをスタートさせた。

それが、「伊敷長なす里帰りプロジェクト」。

このプロジェクトに協力したのは鹿児島大学農学部の「中野 八伯」氏。

育てた苗をこどもたちと一緒に植え付けて、栄門パークバザールでその苗の一部を販売することで、栄門地域に「伊敷長なす」を再び広めよう！というプロジェクトである。

栄門パークバザールを通して、伊敷長なすの苗を購入し、各家庭で育てたなすが、食卓を彩り、栄門の魅力を広げていこう。



6, 結果

栄門パークバザール参加を通して、音楽部・染織部・家庭クラブ・経済調査部のそれぞれが、自分たちの魅力を発信し、鹿女子の魅力を直接PRすることで、新しいつながりを作ることができた。

その結果

- 鹿女子の良さを伝えるには、直接出向いて発信することが効果的である。
- ミニコンサートや製品販売・学校紹介を通して、鹿女子生が生き生きと活躍する姿は栄門パークバザールに賑わいをもたらし、会場を盛り上げることができる。
- 鹿女子の活躍は、栄門の活性化につながる！

を検証できた。

7, 今後の課題

鹿女子の染織部が2022年、夏に染め物のワークショップを開催する予定である。

今回、新たに知ることが出来た**“伊敷長なす”**を染織部で染料として活用し、製品化することが出来ないか。

そうすれば、伊敷長なすが食べ物としてだけでなく、日用品としても活用できると考えた。

例えば、傷や虫食いなどで食用にならなかった伊敷長なすも、染料として活用すれば、余すことなく活かすことができる。

また、製品化することで付加価値が高まり、得た利益で、地域に経済的な貢献をすることもできるだろう。

苗を育てる小学生と、地域を研究する中学生、製品化する高校生、販路を広げる短大生といった役割分担をすれば、**栄門地域につながりと活性化**が期待できる。

8, まとめ

今回の活動を通して、新たな栄門地域の魅力に気づくことができた。

鹿女子は、栄門地域の一員であることを実感した。

そして、鹿女子の魅力を客観的に知ることができた。

栄門パークバザールで、鹿女子と栄門地域がコラボした活動は、大成功だったと思う。

11月に開催される、第4回目の栄門パークバザールにおいても、実行委員として積極的に参加し、鹿女子の魅力を発信しながら、栄門地域を活気づけるお手伝いをしていきたい。

鹿女子×伊敷長なす×栄門地域 についても、効果的なコラボを探っている最中だ。



公共 学習指導案

日 時：令和 4 年 12 月 5 日（月） 第 2 校時
場 所：鹿児島女子高等学校 1 年 2 組教室
対 象：生活科学科 1 年 2 組 35 名
授業者：荻田 英和

1 単元名 財政の役割と社会保障

2 指導にあたって

(1) 教材観

我が国の社会保障制度や財政状況に関する理解は、市民としての暮らしに密接に関わる重要なテーマである。特に人口減少社会における社会保障制度の維持について、わが国は岐路に立たされており、制度の再設計が急務とされている。現在、「高福祉・高負担」あるいは「低福祉・低負担」など、制度の在り方について議論が交わされる中で、主権者としてどのような選択をすべきか判断が求められている。本単元の学習を通して、生徒が当事者として主体的に考える姿勢を涵養したい。

(2) 生徒観

学習に対し真面目に取り組み、グループワークにも意欲的に参加する姿勢が見られる。一方で、知識や技能の習得に終始してしまう傾向にあるため、資料活用やグループワークを通して思考力・判断力・表現力を育成することが今後の課題である。また、基礎的な知識は比較的豊かである一方で、抽象的な概念の理解には一定の課題がある。

(3) 指導観

今後、市民として直面する人口減少社会と社会保障のあり方について主体的に理解するため、生徒自身が高齢者や租税負担者の状況を、共感的に理解する必要がある。そこで、本時はグループワークを通じて協働しながら資料読解を行う。他者と対話しながら当事者意識をもって資料読解を行い、協働して知識を再構成していく場面をもうけることによって、複雑な事象に対しても深い概念形成を見込めることができる。このように、教材に対して個々の生徒自身が当事者として「能動的」に思考し判断するアクティブ・ラーニングに留意して指導を行う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
少子高齢社会における社会保障の充実・安定化に関わる現実社会の事柄や課題をもとに、国民福祉の向上に寄与する政府の役割や公正かつ自由な経済活動の役割について理解している。	幸福・正義・公正などに着目して、自立した主体として解決が求められる課題について、他者と協働して考察し、構想したことを、論拠を持って表現している。	よりよい社会の実現を視野に、人口減少社会における現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

4 本時の評価規準と評価方法

観点	評価点			評価方法
	A	B	C	
知技	日本の出生数の変動に関し、当時の社会状況に結び付けて原因を説明することができる。	日本の人口減少について、グラフを読み取り、出生数の変動を記述することができる。	グラフを読み取り、日本が人口減少社会であることを理解している。	ワークシート
思判表	税負担者や高齢者など当事者の立場を踏まえて、根拠ある意見を述べることができる。	社会保障の問題点を明らかにして、制度のあり方について意見を述べるができる。	社会保障制度の今後のあり方について自身の考えをまとめることができる。	ワークシート グループ活動
態度	当事者意識を持って主題に向き合い、さらなる問いを持つことができた。	人口減少社会に生きる市民として当事者意識を持って主題に向き合うことができた。	本時の学習内容や自身の学習に向き合う姿勢について振り返りを行った。	ワークシート

5 単元の指導計画

時間	学習のねらい・学習内容	観点別評価			評価
		知技	思判表	態度	
1	人口減少社会と社会保障の課題 (本時)	●	●	●	人口減少社会において持続可能な社会保障制度にするためには、どのような課題があるか理解し、論拠を持って自分の意見を表現できる。
2	社会保障と国民福祉	●	●		社会保障制度はなぜ必要なのか、日本の社会保障制度がどのような仕組みで成り立っているか理解している。
3	日本の財政の課題		●	●	持続可能な財政にするためには、どのような課題があるか理解し、自分の考えをまとめ表現することができる。
4	財政のしくみと租税	●		●	政府の経済活動と租税の役割について理解し、具体的な租税の仕組みについて考え、税の使われ方について関心を持つ。

6 本時の授業

段階	学習内容・学習活動	形態	指導上の留意点 / 評価方法
導入 (10分) 人口変動	1. 人口減少社会の実態 Q1. どのように日本の人口は変動してきたのか? ○ 出生数と合計特殊出生率の変化についてグラフを読み解き、特徴を述べる。 MQ. 人口減少社会において、社会保障制度はどのように変化する必要があるか	グループ	○ 地域の身近な事例を用いて人口の変動を実感させる。 ○ 人口の増減は社会の影響を受けて変化してきたことを理解させる。 ● ワークシート【知識・技能】
展開① (15分) 人口減少と社会保障	2. 人口減少社会における課題 Q2. 少子高齢化によってどのような問題が起きているか。 ○ 少ない若者(現役世代)で多くの高齢者を支えることについて考える。 Q3. どのように高齢者を支えてきたのか? ○ 社会保障制度の目的について考える。 Q4. 不足している税金や保険料をどのように補填しているのか? ○ 社会保障費の拡大と国債による負担について考える。	一斉	○ 社会保障には、高齢者福祉のみならず、病気や失業における保障や子育て支援も含まれることを理解させる。
展開② (20分) 社会保障	3. これからの社会保障のあり方 Q5. 財政と社会保障を維持するためには、「高負担・高福祉」型と「低負担・低福祉」型のどちらが有効か? ○ 海外の事例と比較しながら、わが国にとって適した社会保障の負担と給付の方法について考察する。	グループ	○ 2つのシナリオについて理解させ、あるべき社会保障の姿について思考させる。 ● ワークシート【思考・判断・表現】

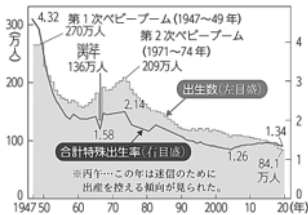
まとめ (5分)	<p style="text-align: center;">MA.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人口減少社会において、社会保障制度の維持が困難になりつつある。 2. 社会保障費は、市民の生活上の安全を守るために重要である。 3. 制度を維持していくためには、「高福祉・高負担」「低福祉・低負担」というシナリオがある。 	<p>○ 本時の学習内容をまとめ、社会保障制度や財政への疑問を考えさせる。</p> <p>● ワークシート 【主体的に学習に取り組む態度】</p>
	<p>○ 個人でワークシートに、本時の学習内容を整理し、疑問点などをまとめる。</p>	

7 ワークシート

1. 人口減少社会

- 合計特殊出生率：一人の女性が生涯に産む子どもの数の平均
 (.....人) / 一人あたり 人口を維持できる合計特殊出生率
 (.....人) / 一人あたり 2020年時点の日本の合計特殊出生率
 → (.....)

◇ワーク◇ 出生数と合計特殊出生率のグラフを読み解こう



- Q1. 第1次ベビーブームに生まれた人は現在何歳か？
- Q2. 左のグラフを参考に気づいたことをまとめよう。

2. 少子高齢化

日本の総人口 (.....人) → そのうち (.....%) が65歳以上

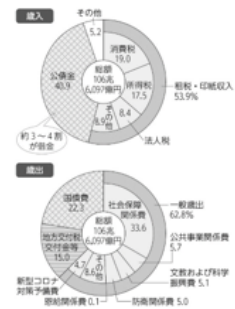
Q3. 少子高齢化によってどのような問題が生じるだろうか。

3. 日本の社会保障制度

Q4. どのように高齢者を支えてきたか？

○ 社会保障制度
→ ・
・

○ 現役世代の負担



→ 社会保障費は日本の歳出の (.....%) を占めている (.....) を発行して社会保障を維持している

4. 社会保障の2つのシナリオ

- (1) 「高福祉・高負担」型 ... (.....) など北欧に多い
- (2) 「低福祉・低負担」型 ... (.....)

Q5. あなたは若者を代表する立場で、どちらの社会保障の型を選択すべきか主張を述べよ。

数学科 学習指導案			
鹿児島女子高等学校 生活科学科 1年 令和4年6月16日(木) 第1校時 場所: 1年3組教室 指導者: 西野 由泰			
単元(題材)名	データの分析		
学習指導要領上の位置づけ	<p>データの分析</p> <p>データの分析について、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解すること。</p> <p>(イ) コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすること。</p> <p>(ウ) 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察すること。</p> <p>(イ) 目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現すること。</p> <p>(ウ) 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすること。</p> <p>[用語・記号] 外れ値</p>		
単元(題材)設定の理由	<p>中学校では、データの散らばりをヒストグラムや箱ひげ図を用いて捉えたり、データの散らばりの度合いを表す指標として範囲や四分位範囲を用いたりしている。「数学I」では、そのようなデータの散らばりの度合いを数値化する方法を考察し、データの散らばりの度合いを表す新たな指標として分散及び標準偏差を取り扱う。その際、データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考えさせる。指導に当たっては、例えば、各データと平均値の差の和、各データと平均値の差の絶対値の和、各データと平均値の差の2乗の和、各データと中央値の差の和、各データと中央値の差の絶対値の和、各データと中央値の差の2乗の和、及び、これらのそれぞれをデータの総数で除した値などの考えを出させ、それぞれの考えの長所や短所などについて話し合った上で、分散及び標準偏差を取り上げること考えられる。</p> <p>本学級の生徒は、新型コロナウイルス感染症の影響で休校や分散登校となり、学校に毎日通うことができなかつたためか、中学校の範囲が理解できていない生徒が目立つ。そのため、できている生徒とできていない生徒の間に大きな差があり、個々のレベルに合わせた授業を展開することは極めて困難である。また、発問に対する反応はやや薄く、生徒の意見を引き出すためには、教員の声掛けが必要となる。</p> <p>指導に当たっては、初めて学ぶデータの散らばり具合を数値化する、分散・標準偏差について学習するため、ICTを活用するとともに、グループ活動を取り入れ、生徒たちが考え、理解を深めようとする姿を引き出したい。</p>		
単元(題材)の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	中学校では、ヒストグラ	四分位数、四分位範囲、四分	統計の基本的な考え方につ

	<p>ムや代表値などにより資料の傾向をとらえることや、資料を度数分布表やグラフに整理して活用することを学んでいる。ここでは、さらに複数のデータについても比較したり、傾向を把握したりできることを理解している。</p> <p>散布図を描いたり、相関係数を計算したりすることにより2つの統計量の傾向を的確にとらえ説明できる。</p>	<p>位偏差や分散、標準偏差の意味を理解して、それらを利用して、データの傾向を的確にとらえ説明することができる。</p>	<p>いて興味・関心をもち、それらを用いてデータを整理・分析し、傾向を把握しようとする。</p> <p>2つ以上のデータの分布を比較したり、傾向を調べたりしようとする。</p>
--	---	--	--

指導計画

時	学習活動	指導上の留意事項	知・技	思・判・表	主体	評価方法
1	度数分布とヒストグラム	データの特徴や傾向をとらえるために、データの度数分布票やヒストグラムを用いて表すことができる。	○			観察, 発問, 演習
2	データにおける代表値	データの特徴を1つの数値で表すことの有用性を認識し、平均値, 中央値, 最頻値について理解する。	○			観察, 発問, 演習
3	5数要約と箱ひげ図	四分位数, 範囲, 四分位範囲, 四分位偏差を理解し, 箱ひげ図を用いてデータの分布を視覚的にとらえることができる。	○	○		観察, 発問, 演習
4	分散と標準偏差 (本時)	散らばり具合を数値で表すための方法として, 偏差, 分散, 標準偏差を理解し, データをもとにそれらを求めることができる。	○		○	観察, 発問, 演習
5	確認問題		○	○		課題プリント

6	データの相関	2つの変量の組を座標とする散布図をつくり、2つの変量の相関をとらえることができる。		○	○	観察、発問、演習
7	相関係数	相関関係を1つの数値として表す方法として、相関係数を理解する。また、相関係数を求め、2つの変量の相関をとらえることができる。	○		○	観察、発問、演習
8	確認問題		○	○		課題プリント

本時の展開

(1) 散らばり具合を数値で表すための方法として、偏差、分散、標準偏差を理解し、データをもとにそれらを求めることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習内容と学習計画	指導上の留意点	評価等
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶等 ○ データの散らばりについて疑問を持つ。 ○ 本時の目標の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 出欠確認をする。 ○ 生徒の反応を見ながら、発問を繰り返し、話を進める。 	
展開	20分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各点数の散らばりを数値化する方法を考える。 ○ 集団の散らばりを数値化する方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ① 偏差の平均をとる。 ② 偏差の絶対値の平均をとる ③ 偏差の2乗の平均をとる ○ ③が分散であることを知り、データのサイズが大きくなっていることを確認する。 ○ ③に平方根をつけるとそれが標準偏差であることを知る。 ○ 偏差・分散・標準偏差の計算方法を確認する。 ○ 問題を解き、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 普段のテストの話から、平均点を基準とすることに導く。 ○ ①において、偏差の数値をすべて正の数にする必要があることに気付かせる。 ○ ②③において、時代の流れを加えつつ話を進める。 ○ 100点満点のテストから、分散が10000点満点になっていることに気付かせる。 ○ データのサイズを戻すために、平方根をつけると良いことに気付かせる。 ○ 標準偏差が誕生する流れを簡単に話しつつ、再確認させる。 ○ 机間指導の中で、遅れている生徒への声掛けを行う。 	<p>【主体】 グループ活動の中で、問題解決に向けた活動が行われているか。</p> <p>【知識・技能】 評価プリントに正しく記載がされているか。</p>

展 開 2 分	2 0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 標準偏差を改造したのが偏差値であることを知る。 ○ 68%, 95%ルールを知り, 偏差値の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な高校の偏差値を紹介しつつ, 興味を引く。 ○ 簡単に説明することで, 苦手意識を増幅させないようにする。 	
ま と め	5 分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 標準偏差を求めるまでの過程を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 確認プリントに記入させることで, 理解度の確認を行う。 	<p>【主体】 評価プリントに本時の取り組みについて, 自己評価をする。</p>

保健体育（保健）指導案

日 時	令和5年1月24日（火）3校時
場 所	鹿児島女子高等学校1年8組教室
対 象	情報会計科 1年8組22名
授 業 者	教諭 本村 明美

1 内容のまとめり (1) 現代社会と健康

2 単元名 (エ) 喫煙，飲酒，薬物乱用と健康

3 単元観

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康課題や健康の考え方が変化するとともに、様々な健康への対策、健康増進の在り方が求められている。したがって健康を保持増進するためには、一人一人が健康に関して深い認識をもち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要である。また、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方にもとづいて現代社会の様々な健康課題に関して理解するとともに、その解決に向けて思考・判断・表現できるようにする必要がある。このため、喫煙と飲酒については、生活習慣病などの要因になること、薬物乱用については、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことを認識し、それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解できるようにする。

4 生徒観（生徒の実態）

本学級は、学習に熱心で、授業に集中して取り組むことができる生徒が多い。事前のアンケートの「保健の授業は好きですか」という問いに対して89%の生徒が「好き」「まあまあ好き」と回答している。理由としては、「自分の生活を振り返り、健康について知ることができるから」「将来に向けて備えることができるから」という内容が多かった。しかし、「学習した知識を使って説明することが得意ですか」という問いに対しては、31%の生徒が「まあまあ得意」と回答し、69%の生徒が「あまり得意ではない」「苦手」と回答している。「あまり得意ではない」「苦手」の理由として、「説明するのが苦手」「情報整理を頭の中でできなく苦手」など、自分の意見や考えを交流することに抵抗感を示す生徒が多い。このことについては、以前からの課題であり、様々な学習や行事を通して、少しずつ主体的に取り組むことのできる生徒が増えてきたが、アンケートでは依然として他者とのコミュニケーション力の低さが感じられる。「20歳になったらお酒を飲みたいか」という質問では52%の生徒が「少し思う」と回答し、理由として「味を知りたいから」「親や兄弟と飲みたいから」と興味を示し、42%の生徒が「美味しくなさそう」「酔っぱらって家に帰れなくなったら嫌だ」「自分の身体が大切だから」と「あまりそう思わない」という回答に分かれた。グループ活動なども含めて自分の意見や考えを交流させ、コミュニケーション能力を高めていきたい。

5 指導観

喫煙・飲酒・薬物乱用の防止について、正しい判断のもとに行動に移す実践力を育成することが大切である。そこで、自ら学び、考え、主体的に判断し、望ましい行動に結びつけるための指導を行う。飲酒については、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねることを理解させ、さらに周囲の人々や胎児への影響などにも触れるようにする。また、飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であること、さらに好奇心、自分自身を大切にすることの低下、周囲の人々の行動、マスメディアの影響、エチルアルコールの薬理作用などが、飲酒の開始や継続の要因となることを理解する。これらの正しい知識を習得し、得た知識をもとに自分の言葉で説明する思考力や表現力を身に付けるため、毎時間少人数で設定した課題に取り組み、考えを交流できる雰囲気づくりをする。また、未成年における喫煙、飲酒や社会問題となっている薬物乱用を許さないという意識の高揚を図るとともに、勧められたときに断る勇気や自分自身を大切にすることの必要性も併せて指導し、対処の仕方について適切に対処する技能も高めていく。

6 単元の目標

- (1) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することからそれらに適切に対処する必要があることを理解できる。 (知識及び技能)
- (2) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康の関係について関心を高め、課題解決に向けて進んで仲間と協力しながら学習することができる。 (思考力・判断力・表現力)
- (3) 喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして防止対策を評価することができ、積極的に意見を出してグループ活動での話し合いに参加することができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解しようとしている。	現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。

8 指導と評価の計画（3時間）

時	主な学習活動	知 技	思 判 表	態 度	評価方法
1	○喫煙と健康 ・たばこの煙に含まれている様々な有害物質について復習し、喫煙による健康への影響について説明を聞きまとめる。 ・喫煙による健康被害の防止に必要な個人及び社会環境への対策について説明を聞きまとめる。 ・喫煙による健康影響の内容を踏まえて誘われたらどのように断れば良いか対策を考えさせまとめる。	○	○		ワークシート
②	○飲酒と健康 ・飲酒による健康影響について飲酒本人と飲酒本人以外にどのように影響するのか説明を聞き記録する。 ・飲酒による健康被害の防止を国際的、日本ではどのような対策をしているか説明を聞き記録する。 ・飲酒による健康影響の内容を踏まえて20歳未満の飲酒がなぜいけないのかグループで話し合い発表する。また例を挙げてもし自分だったらどのように断るのか考えさせ発表する。	○	○		ワークシート
3	○薬物乱用と健康 ・薬物乱用による健康影響と社会問題、開始する要因と薬物乱用を防止する対策を考えまとめる。 ・薬物乱用による健康影響や社会問題の内容を踏まえてもし自分が誘われたらどうするか考えさせ発表する。	○	○	○	ワークシート

9 本時の実際

(1) 本時の目標

・飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねることや飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、および法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることを理解できるようにする。
(知識・技能)

・飲酒は、20歳未満の飲酒を法律で禁止としている中で、飲酒を始めるきっかけについて自分たちでも考えさせ、事例を元に自分ならどのように断ればいいのか意見を出し合いグループでまとめる。
(思考・判断・表現)

(2) 本時の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
飲酒による健康影響や社会問題、依存症や開始する要因と健康被害の防止についてどのような対策があるか理解しようとしている。	飲酒による健康影響や社会問題から自分としてはどのように考え、判断していくか考えることができる。	誘われたときに断る内容をグループ内でも意見交換をし、学習に対して主体的に取り組もうとしている。

10 本時の展開

段階	学習内容と活動	時間	形態	指導上の留意点	教材等
導入	1 本時のねらいと学習の内容を理解する	3	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容の見通しをもたせる ・クラスでの集計結果を伝え、本時ではより詳しく学習を行うことを伝える 	
	2 飲酒についてアンケートした結果を伝える				
	3 本時の学習課題を設定する				
飲酒の健康影響について理解し、20歳未満の飲酒が禁止される理由について考え、もし誘われたらどのように断るのか考えよう。					
展開	4 飲酒を開始する要因として自分だったらどのようなきっかけで飲酒をするか考え、班内で発表し、まとめる	5	個人 班	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは個人の考えを付箋へ記入し、自分の意見をもてるようにさせる。その後班内で発表させまとめる。 ・発表する際の司会進行、記録者を指定し、スムーズに話し合いができるように指示する ・話し合いに積極的に参加し、意見を出しているか <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p>	付箋 ワークシート (個人) ワークシート (班)
	5 全体で発表する	5	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者を指定する ・発表班以外の班は自分たちの班では意見が出なかったものを必要ところは記録をとるよう指示する 	ワークシート (班)
	6 飲酒本人や飲酒者本人以外の健康影響、依存性、社会的な対策について理解する	15	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・説明を聞き、必要ところはワークシートへ記入するよう指示する 	パワーポイント 板書 ワークシート (個人)
	7 なぜ20歳未満の飲酒が禁止されているのか考えさせ班で話し合い、発表する	5	個人 班	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒について学習した内容も活用し、自ら考え、自分の意見をワークシートに記入させ、班で発表させ、全体で何人かに発表させる <p style="text-align: right;">【知・技】</p>	ワークシート (個人・班)
	8 20歳未満の飲酒禁止の理由について理解する	2	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・20歳未満の飲酒禁止の理由について説明する 	パワーポイント
	9 今後もし自分が誘われたらどのように断るかを考えさせ、各班で自分の意見を発表する	7	個人 班	<ul style="list-style-type: none"> ・断るときに相手にどのように伝わってほしいと思うか説明を加える ・積極的に話し合いに参加し、意見を出しているか <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p>	ワークシート (個人・班)
	10 全体で発表する	5	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・他の意見で参考になるものは記録するよう指示する 	
まとめ	11 本時のまとめ	3	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒について、個人や周りの人への影響等を理解したか、ワークシートへ自己評価させる ・次回は、薬物乱用についての授業を行うことを説明する 	ワークシート (個人)
	12 次回の説明				

1.1. 板書計画

1.4. 飲酒と健康

飲酒を始める理由は？

-
-

○健康影響

飲酒者本人→麻酔作用

急性アルコール中毒

アルコール依存症

飲酒者以外→妊婦の飲酒

胎児への影響

○対策

国際的

- 値上げ
- 宣伝・広告の規制

日本

- 道路交通法
- アルコール健康障害対策基本

本時の目標

・飲酒の健康影響について理解し、20歳未満の飲酒が禁止される理由について考え、もし誘われたらどのように断るのか考えよう。

Q. 飲酒を始める理由は？きっかけは？ 付箋へ記入し、班で発表しましょう。

◎飲酒者本人への健康影響

●酒類のアルコールが体内に入る

→ () や脊髄の働きを低下させる ()

○言葉が () しない

○ () 歩けない

○意識がもうろうとする

() 飲み

●アルコールが体内に入る程度

【短時間・大量】

() 中毒になりやすい

症状：急に脳の働きを () する

生命の危険

【長期間・多量】

身体：生活習慣病のリスクが高まる

症状：肝障害や膵炎

食道がん、高血圧症や ()

女性の () のリスクを上昇させる

精神： () 依存症のリスクが高まる

症状：うつ病



○習慣的な飲酒によって…

『飲酒に対する () をコントロールできなくなる状態』に陥る

○様々な問題が起こっても飲酒を ()

◎飲酒者以外の人への影響・社会問題

妊婦の飲酒 → () に影響

○低出生体重

○胎児性アルコール症候群といった ()

○発育の遅れ

本人の過度の飲酒

→飲酒運転による交通事故

→配偶者や子供への暴言・暴力

() ・ハラスメント

◎不適切な飲酒を防止するための対策

国際的な取り組み

- 酒の（ ）
- 飲み放題の規制
- 宣伝・（ ）の規制

日本での取り組み

対策→法律：①（ ）法，②アルコール（ ）基本法

- ①運転者，同乗者，酒類の提供者などに厳しい行政処分
- ②正しい知識の普及，専門的な医療機関の整備

【自己評価】

1. 飲酒による飲酒者本人への健康影響について理解しましたか
理解した ・ 理解していない
2. 飲酒者本人以外への健康影響について理解しましたか
理解した ・ 理解していない
3. 依存性について理解しましたか
理解した ・ 理解していない
4. 不適切な飲酒を防止するための社会の対策として，国際的な取り組み，日本での取り組みの内容を理解しましたか
理解した ・ 理解していない
5. 20歳未満の飲酒が禁止されている理由は何ですか？

6. 本授業で学んだ内容から「飲酒」に対して授業前とどのように考えが変わりましたか？

美術 I 学習指導案

芸術科美術 堀之内 彩七

1 題材名 見て、感じて、言葉で伝える～タンギー爺さんの鑑賞～

2 題材設定の理由

(1) 題材観

本題材は、高等学校学習指導要領芸術（平成 30 年）の美術 I 「B 鑑賞」（1）の事項ア「造形的な良さや美しさを感じ取り，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え，見方や感じ方を深めること。」を受けて設定した。形や色彩，材質感などに注目し，作品で取り上げられている題材の背景についても考察しながら，作品に対する見方や感じ方を広げ，言葉で表現することを狙いとする。

授業では，フィンセント・ファン・ゴッホの「タンギー爺さんの肖像」の鑑賞を行う。この作品は，形，色彩，材質感など造形的な要素が特徴的である。また，タンギー爺さんや，その背景に描かれた浮世絵など，作者の制作意図について考察できる要素が多く含まれている。これらを意識しながら鑑賞することで，対象の見方や感じ方を広げることができる題材である。

鑑賞した作品から感じ取ったことや考えたことなどをお互いに言葉で説明し合う活動を通して，言語活動の充実を図る。また，主体的な学びを実現させるために，グループでの話し合いの時間を十分に確保し，生徒同士の会話から作品のよさを発見できるようにしたい。グループ内での他者の意見を傾聴し，自分にはない新たな見方や感じ方に気づくことで，自分自身の価値観を広げてほしい。感受性豊かな高校生という年代に，多くの作品と出会い，様々な価値観に触れることを通して，個々の感性を高めさせたい。

(2) 指導観

本題材は「見て、感じて、言葉で伝える～タンギー爺さんの鑑賞～」と設定した。一枚の絵画の鑑賞を通して，造形的な視点に立った作品の見方を学び，自分なりの言葉で作品のよさや美しさを表現する活動となる。指導にあたっては，生徒個人の見方や感じ方を大切にしながら，以下のようなことに留意しながら活動を展開していきたい。

まず，プロジェクターで大きく映し出された作品を個人でじっくりと鑑賞する。その際，「鑑賞＝難しい」という先入観を持たせないよう，自分の言葉でわかりやすく伝える事が大切ということを強調す

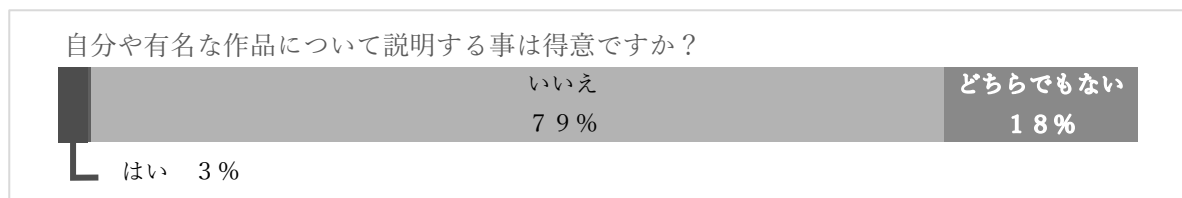
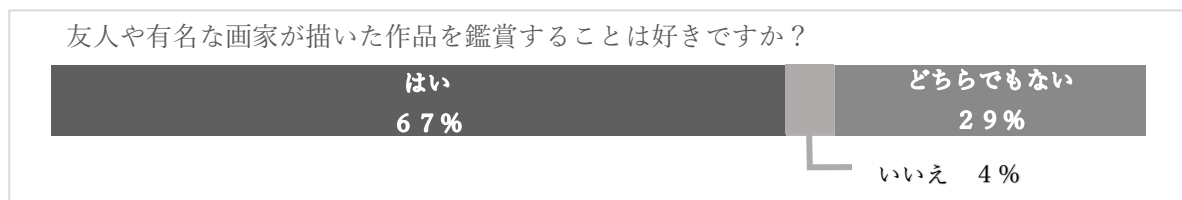
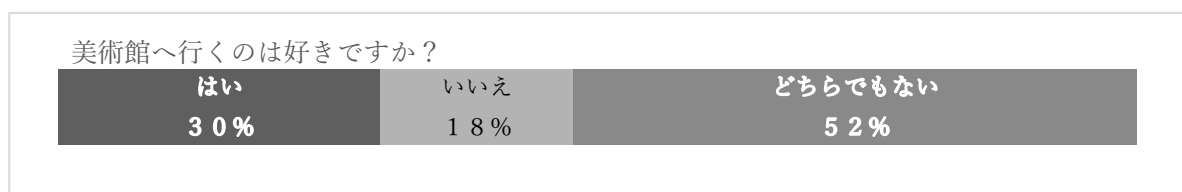
る。また、鑑賞のポイントが記されたワークシートを用いることで、構図、形、色彩、技法などの造形的な要素に注目しながら意見を整理できるようにする。また、どのような意見を出せばいいか悩む生徒の手助けとなるようにする。次に、個人鑑賞でまとめた意見をもとにして、グループでの意見交換を行う。グループ活動では、役割分担をして話し合う時間や、代表して発表する時間を十分に取り、言語活動の充実を図る。また、それによって様々な意見に触れ、自分自身の見方や感じ方を広げ、深められるようにしたい。話し合いがうまく進められていない場合は、教師による発問や助言を通して、発表しやすい雰囲気づくりを行う。

この題材を通して、作品のよさや美しさを味わうことの喜びや、自分の考えを言葉にして他者と共有することを通して新しい見方に気づく面白さを実感させたい。また、鹿児島女子高等学校は鹿児島市の中心地に位置しており、近くに鹿児島市立美術館や鹿児島県歴史・資料センター黎明館、様々なギャラリーがある。この学習活動を機に、この恵まれた立地を活用し、自ら進んで様々な美術作品に触れていこうとする姿勢も育んでいきたい。

(3) 生徒の実態

調査期日：令和4年9月

調査対象：1年生 生活科学科 42名、商業科 19名、情報会計科 15名、計76名



本学年の生徒は、普段の制作活動においても丁寧に取り組み、分からない事は友人同士で教え合ったり、鑑賞の時間以外でもお互いの作品のよいところを伝え合ったりする場面が見られる。事前に行ったアンケートでは、「友人や有名な画家が描いた作品を鑑賞することは好きですか」という質問に対し、

67%の生徒が「はい」と回答していた。また、どちらでもないと回答した生徒の中にも、知識はないが見ること自体は楽しいと回答している生徒も多く、作品を見ることに興味をもっていたり、楽しさを感じていたりする生徒が多いことがわかった。

一方で、「自分の作品や画家の作品について言葉で表現することは得意ですか」という質問に対して、はいと回答した生徒は2名のみであった。また、どちらでもないと回答した生徒の多くも、理由として「言葉にすることが難しい」と述べていた。このことから、ほぼ全員の生徒が、作品を見て感じたことや気づいたことを言葉にすることに難しさを感じているということが分かった。そのため、鑑賞の授業において、生徒が作品を見て感じたよさや美しさを言葉に表せるよう、鑑賞の視点を提示しようとする。鑑賞の視点を提示することで、生徒たちが造形の要素に気づけるようにする。そして、造形の要素と自分の感じたことを結びつけながら、自身の感想を言葉に表すことができるような働きかけを行っていきたい。また、自分の感じたことや考えたことを発言できる受容的な雰囲気づくりを行い、個人とグループでの活動を組み合わせながら鑑賞を深めたい。

3 学習目標

- (1) 形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風などで捉える。 (知識・技能)
- (2) 作品の造形的なよさや美しさを感じ取るとともに、作者の意図や創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深め、言葉で表現する。 (思考・判断・表現)
- (3) 主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、創造的な表現について考える鑑賞の創造活動やグループでの意見交換に取り組む。 (主体的に学習に取り組む態度)

4 評価規準

観点	評価規準	評価項目	十分満足できると想定した生徒の状況	努力を要すると判断した生徒への手立て
知識・技能	・形や色，材料などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などをもとに，全体のイメージや作風などで捉えることができる。	1) 作品に用いられている造形的な要素に気づく事ができる。	・作品の造形的な要素に気づくことができる。	・鑑賞の視点を具体的に示したり，項目を細かく分けたりする。
思考・判断・表現	・作品の造形的なよさや美しさを感じ取るとともに，作者の意図や創造的な表現の工夫などについて考え，見方や感じ方を深め，言葉で表現することができる。	1) 作品から感じたよさや美しさを，自分なりの言葉で表現することができる。 2) グループ活動を通して，自分の視野を広げる事ができる。	・作品から感じたよさや美しさを，造形的な要素と結びつけながら自分なりの言葉で表現することができる。 ・お互いの意見を認め合い，自分の視野を広げる事ができる。	・鑑賞活動においては，正解不正解はなく，多様な意見を出し合うことが重要であると伝える。 ・自分なりの言葉で，わかりやすく伝えることが大切であると伝える。
主体的に学習に取り組む態度	・主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り，創造的な表現について考える鑑賞の創造活動やグループでの意見交換に取り組む事ができる。	1) 作品に興味関心をもつ事ができる。 2) 鑑賞活動に積極的に取り組み，意見を共有する事ができる。	・作品のよさや美しさを，自分なりの価値意識をもって味わう事ができる。 ・自分の意見を他者と共有し，まとめる事ができる。	・発問や助言をし，話し合いを進めやすい雰囲気をつくる。

5 指導と評価計画（全3時間）

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価項目・評価方法)
1時間 (日本美術史)	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の意義について学習する。 作品の鑑賞を通して、造形的な要素に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術における制作と鑑賞活動の関係性を理解させる。 鑑賞の視点を持つことで、自分自身が感じたよさや美しさを具体的な言葉で表現できることに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の中の造形的な要素に気づくことができる。 (知識・技能) 作品のよさや美しさを、主体的に感じ取ろうとすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)
本時 1時間 (西洋美術史)	<ul style="list-style-type: none"> タンギー爺さんの肖像の個人鑑賞を行う。 グループ活動で意見を交換する。 本時の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品から感じたよさや美しさを具体的な言葉で表現できるよう、鑑賞の視点を示す。 自分なりの見方や他者の意見を尊重できるような指導を行う。 グループ活動ではそれぞれに役割を与え、主体的に活動に参加出来るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が感じた作品のよさや美しさを言葉に表すことができる。 (思考・判断・表現) 多様な意見を尊重し、自身の視野を広げることができる。 (思考・判断・表現)
1時間 (彫刻作品)	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻作品の鑑賞を行う。 彫刻作品の造形的な要素や魅力について考える。 彫刻作品を見て感じたよさや美しさを、具体的な言葉で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵画などの平面作品と比較し、立体作品の特徴的な造形の要素に気づかせる。 自分なりの見方や他者の意見を尊重できるような指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の中の造形的な要素に気づくことができる。 (知識・技能) これまでの活用で培った鑑賞の視点を積極的に活用することができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

6 本時の実際

(1) 本時の目標

タンギー爺さんの肖像を鑑賞して感じたことを、言葉にして伝えよう。

ア 形や色，材料などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などをもとに，ゴッホの作品を，全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 (知識・技能)

イ ゴッホの作品の造形的なよさや美しさを感じ取るとともに，作者の意図や創造的な表現の工夫などについて考え，見方や感じ方を深め，言葉で表現する。 (思考・判断・表現)

ウ 主体的にゴッホの作品の造形的なよさや美しさを感じ取り，創造的な表現について考える鑑賞の創造活動やグループでの意見交換に取り組む。 (主体的に学習に取り組む態度)

(2) 準備するもの

(教師) …教科書，ワークシート，掲示資料，プロジェクター

(生徒) …教科書，ワークシート，筆記用具

〈本時の展開〉

過程時間	学習活動	授業形態	指導上の留意点	評価規準 (評価項目・評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいと本時の学習内容を確認する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">タンギー爺さんの肖像を鑑賞して感じたことを、言葉にして伝えよう。</p>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容の見通しをもたせる。 活動内容の流れを説明する。 (個人鑑賞→グループ鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> 作品に関心をもち，鑑賞活動に向けて意欲を高める事ができる。 (主体的に学習に取り組む態度)
展開 10分	<ul style="list-style-type: none"> 作品を個人で鑑賞し，個人用のワークシートをまとめる。 	個人	<ul style="list-style-type: none"> 第一印象や感じたことを自由に記入させる。 造形的要素を手がかりに作品の分析が行えるよう，鑑賞の視点を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が感じた作品のよさや美しさを言葉に表すことができる。 (思考・判断・表現) 作品の中の造形的な要素に気づくことができる。 (知識・技能)
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> 作品にまつわる話を聞く。 グループで個人用のワークシートの内容を共有し，まとめる。 グループごとに発表する。 	一斉 グループ 一斉	<ul style="list-style-type: none"> 次の活動が活発に行えるような作品についての知識を得られるようにする。 それぞれの意見を尊重するよう意識させる。 造形的な要素から，作者が絵に込めた思いを考察させる 他のグループの意見もメモさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的にグループ活動に参加出来る。 (主体的に学習に取り組む態度) 多様な意見を尊重し，自身の視野を広げることができる。 (思考・判断・表現)
終末 5分	<ul style="list-style-type: none"> 自分の活動を振り返る。 ワークシートに本日の感想を記入する。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 今日の授業を振り返り，感想を記入させる。 	

(3) 評価

ア 形や色，材料などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などをもとに，ゴッホの作品を，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 (知識・技能)

イ ゴッホの作品の造形的なよさや美しさを感じ取るとともに，作者の意図や創造的な表現の工夫などについて考え，見方や感じ方を深め，言葉で表現することができる。 (思考・判断・表現)

ウ 主体的にゴッホの作品の造形的なよさや美しさを感じ取り，創造的な表現について考える鑑賞の創造活動やグループでの意見交換に取り組もうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

子どもの発達と保育 学習指導案

日 時 令和4年12月14日(水) 3校時
対 象 3年3組 女子37名
場 所 3年3組教室
指 導 者 大城 貞子
使用教科書 子どもの発達と保育 新訂版(実教出版)

1 単元

(2) 子どもの発達過程

2 小単元

(2) エ 人間関係の発達

3 小単元について

乳幼児期は、親または主たる養育者との愛着関係を形成することが、その後のよりよい発達のために重要である。それは、人間全体へ対する愛情と信頼の基礎となり、自己受容感の醸成、人格形成そして人間関係を広げていく上で不可欠だと理解させたい。また、保育について学んだ知識や技能を、実際に活用できる力を身に付けさせたい。

4 小単元の目標

- (1) 子どもの人間関係の発達について関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもにかかわることができる能力と実践的な態度を身に付いている。 【関心・意欲・態度】
- (2) 愛着関係の形成と発達について、乳幼児の保育の課題を見出し、その解決について考えることができる。 【思考・判断・表現】
- (3) 愛着関係が発達の上で重要であり、愛着関係の経験が人格形成へとつながっていくことを理解している。 【知識・理解】

5 小単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
子どもの人間関係の発達について関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもにかかわることができる能力と実践的な態度を身に付けている。	愛着関係の形成と発達について、乳幼児の保育の課題を見出し、その解決について考えることができる。		愛着関係が発達のうえで重要であり、愛着関係の経験が人格形成へとつながっていくことを理解している。

6 小単元の指導計及び評価計画 全3時間

小単元名	指導項目	時間	評価の観点				評価の方法
			関	思	技	知	
(2) エ 人間関係の発達	愛着関係の形成	1	○	○		○	授業への取り組み
	人間関係の広がり	1	○	○			ワークシート
	子どもの人格形成	1	○	○		○	

7 生徒の実態

本学級はおだやかな生徒が多く、授業態度は良好であるが、積極的に意見を発言する生徒は少ない。保育に関しては、子どもや子育てに対して「かわいい」「元気」「楽しそう」など、良いイメージを持つ生徒が多いが、子どもと触れ合った経験が少ない、もしくは全くない生徒が多く、実際の子供像を想像しにくいと考える生徒が多い。子どもの発達について学んできたことを振り返りながら、実際の子どもの例に触れることで、子どもの発達の段階に適したかかわり方について総合的に考えられる力を定着させたい。

8 本時の実際

(1) 本時の目標

- ・子どもの人格がどのようにして生まれるかを知り、反抗期や子どもの行動について理解する。

【知識・理解】

- ・子どもへのかかわり方を考える。

【思考・判断・表現】

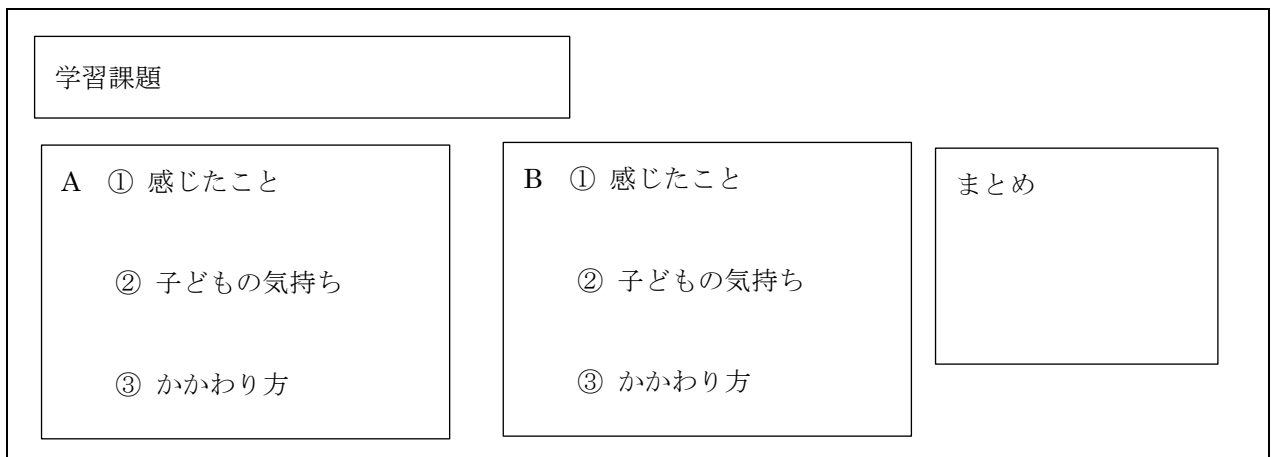
(2) 本時の展開

段階	学習活動	時間	形態	指導上の留意点	資料等
導入	1 反抗期の子どものロールプレイングをする。	8分	ペア	<ul style="list-style-type: none"> 反抗期の言動の特徴や対応について、ロールプレイングで疑似体験させ、接し方を考えさせる。 本時の学習内容を明確にする。 	ワークシート
	2 本時の学習内容を確認する。				
	乳幼児期の子どものかかわり方を考える				
展開	3 第一反抗期と中間反抗期について理解する。	10分	個人	<ul style="list-style-type: none"> 反抗期における子の気持ちを考えさせて、この時期の自我について気づかせる。 子どもの成長において、反抗期があることは順調な過程であることを理解させる。 第一反抗期と中間反抗期の特徴を理解させる。 	ワークシート パワーポイント
	4 第一反抗期と中間反抗期におけるかかわり方を考える。	5分	個人	<ul style="list-style-type: none"> 第一反抗期と中間反抗期におけるかかわり方を考える。 	ワークシート
	5 班で発表し、班の意見をまとめ、発表する。	10分	班	<ul style="list-style-type: none"> お互いの意見を共有し、思考の深化につなげさせる。 	ホワイトボード
	6 乳幼児期に見られるさまざまな心身症状について理解する。	5分	全体	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児に見られるさまざまな心身症状の種類を理解させる。 	ワークシート
	7 子どもとのかかわり方について考える。	7分	個人	<ul style="list-style-type: none"> 子どもとのかかわり方について、学習したことを振り返りながら考えさせる。 	ワークシート
終末	8 本時の振り返りと次時の学習内容を確認する。	5分	全体	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容について、振り返りを記入させる。 	ワークシート

(3) 本時の評価規準と評価方法

評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人格がどのようにして生まれるかを知り，反抗期や子どもの行動について理解する。 【知識・理解】 ・子どもへのかかわり方を考える。 【思考・判断・表現】
到達基準	A 反抗期や子どもの行動を理解している。 子どもの成長や発達の特徴もふまえて考えることができる。
	B 反抗期や子どもの行動を理解し，子どもへの接し方を考えることができる。
	C 反抗期や子どもの行動を理解できていない。 子どもへの接し方を考えることができていない。
評価方法	ワークシート

(4) 板書計画



家庭総合学習指導案

実施日 令和4年12月16日(金)1校時
 教科書 未来へつなぐ家庭総合 365
 対象学級 生活科学科1年3組35名
 授業者 水津 美幸

1 単元名 A編 第4章 高齢期の生活と福祉

2 小単元 3 高齢化する日本を生きる

3 小単元について

本単元においては、高齢者を取り巻く環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解させ、高齢者の自立生活を支えるための実践力と実践意欲を養わせたい。そこで指導にあたっては、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、高齢者の心身の特徴や状況に応じて適切な支援の方法や関わり方を工夫できるよう考えさせ、今後の生活の中で実践的に行動できる力を身に付けさせたい。

4 小単元の目標

- (1) 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深める。 【知識・技能】
- (2) 高齢者を取り巻く社会環境の変化の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて、論理的に表現するなど、高齢者の生活支援をするために工夫し課題を解決する力を身に付ける。 【思考・判断・表現】
- (3) 超高齢社会において増加する介護や高齢者福祉などに関する課題の解決に向けて、主体的に取り組んだり、振り返って改善したりするとともに、適切な支援の方法や関わり方の向上を図るために実践しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 小単元の指導計画及び評価計画(単元名 高齢期の生活と福祉)

小単元名	指導項目	時間	評価の観点		
			知 技	思 判 表	態 度
高齢化する日本を生きる	1 高齢化の現状	1時間	○		
	2 超高齢社会の課題	1時間	○	○	
	3 安心できる暮らしを支える	2時間【2/2本時】		○	○

6 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深めている。	高齢者を取り巻く社会環境の変化の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて、論理的に表現するなど、高齢者の生活支援をするために工夫し課題を解決する力を身に付けている。	超高齢社会において増加する介護や高齢者福祉などに関する課題の解決に向けて、主体的に取り組んだり、振り返って改善したりするとともに、適切な支援の方法や関わり方の向上を図るために実践しようとしている。

7 生徒の実態

アンケート結果(計32人)

(1) 高齢者に対するイメージとして、思いつくことを単語で書いてください。

優しい/いつも笑っている/穏やか/心が広い/かわいい/野菜くれる/お金くれる/のんびりしている
昔の話をしている/マイペース/料理がおいしい/早寝・早起き/散歩/農業をしている/暇/和/お茶
方言/ゲートボール/字がきれい/ゴルフ

視力低下/筋力低下/聴力低下/体力低下/介護/病院/動作が遅い/歩くのが遅い/腰が曲がっている/白髪
認知症/白内障/骨粗鬆症/老眼/反応ができない/しわが増える/めがね/体が重い/不自由/シルバー/杖
膝が痛い/介護施設に通っている/病気になりやすい/転倒/介護が大変/介護/すぐ疲れる/体力不足
一人/死

(2) 高齢者の方と普段どのくらいのペースで関わることがありますか。

- ・ 毎日…1人
- ・ 年に数回…7人
- ・ 週に数回…8人
- ・ ほぼ無い…2人
- ・ 月に数回…14人

(3) (2)で関わったときに、困ったことはありますか。ある人はどのようなことに困りましたか。

- ・ ある…16人
 - ・ ない…16人
- ⇒
- ・ 方言が聞き取れない…4人
 - ・ 大きな声で話さなければ相手が聞き取れない…3人
 - ・ 言ったことをすぐ忘れてしまう…2人
 - ・ 話していても聞き取れず何度も聞いてくる
 - ・ 話し方を合わせなければならない
 - ・ ジェネレーションギャップ
 - ・ 価値観の違いで喧嘩になってしまう
 - ・ 遠くから呼びかけても聞こえない
 - ・ 素早く動けないから駐車場などのちょっとした移動でも大変ですごく気にかけないといけない

- ・ 重い荷物は腰が痛くなるので毎回持ってあげなければならない
- (4)① 街中で高齢者が困っている場面に遭遇したことがありますか。
- ・ はい…15人 ・ いいえ…17人
- ② ①ではいと答えた人に聞きます。その場面であなたはどのような行動・対応をしましたか。
- ・ 道に迷っていたため道案内をした
 - ・ 電車で杖をついている方が立っていたためバスで席を譲った
 - ・ 知らないおばあさんが初めてのコンビニで緊張して止まっていたから一緒に入った
 - ・ バスの乗り方が分からなくて困っているおばあさんがいて教えてあげることができた
 - ・ 押しボタンの信号で、ボタンを押しておらずずっと待っていたためボタンを押してあげた
 - ・ 荷物を持ってあげた
 - ・ 重い荷物を持っている方が横断歩道を渡っており、点滅し始めたため「荷物を持ちますよ」と言って一緒に渡った
 - ・ 転んでいる人がいたため、「大丈夫ですか。立てますか。」と声をかけた

アンケートの結果から、高齢者に対して「優しい」「いつも笑っている」「穏やか」など多くの良いイメージをもっているということが分かった。一方で「視力・筋力・聴力・体力低下」「介護」「病院」「動作が遅い」などのイメージを持っている生徒も半数以上おり、高齢期になると心身の衰えや不自由さがあるということにも着目できていた。高齢者と関わる機会は年に数回から月に数回という生徒が半数以上(22人)であり、その関わりの中で実際に経験した困ったことが、(1)の高齢者に対するイメージに繋がっているのだと考えられる。(4)において、身近な高齢者でなくても道案内をしたりバスの席を譲ったりなど、困っている人がいたら声をかけて助けることができる生徒が多くいることが分かった。現代において、困っているだろうと思っても、周りを気にしてなかなか行動に移せないという若者が多い中で、このように行動することができている生徒が多いことは、本校の良い特徴でもあると考える。そこで指導に当たっては、この良さをより伸ばせるように、優しく相手を思いやることのできる気持ちを生徒から引き出し、誰もが主体的に行動に移せるような態度を育てられるように事例文から考えさせたい。また、もしも自分の家庭内で起こったらというように、自分事としても考えさせたい。

8 本時の実際

(1) 主 題 「安心できる暮らしを支える」

(2) 指導目標 ・ 事例文の中から問題を見だし課題を設定して、家族・地域全体として多方面から解決するためにはどのような方法があるのかを考え、表現する力を身に付けさせる。

【思考・判断・表現】

- ・ 超高齢社会において増加する介護や高齢者福祉などに関する課題の解決に向けて、主体的に取り組み、実践しようとする態度を育てる。 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 本時の展開

段階	学習活動	時間	形態	指導上の留意点	評価方法	教材等
導入	1 前時の振り返りをする。	5	個人	・高齢者を支える仕組みについて振り返り、知っているだけでなく実践できるようになることがこれからを担っていく世代として大切であることに気付かせる。		パワーポイント
	2 本時の学習課題を設定する。					ワークシート(個人)
高齢者が安心して自立した生活を送るために、私たちにできることは何だろうか。						
展開	3 事例の文章を読み、読み取れる問題を挙げる。	5	個人	・文章中に線を引かせ、問題の根拠となる部分を明確にさせる。全体で共有し、大きく4つの問題があることを理解させる。	●ワークシート 【思考・判断・表現】 〈記録に残す評価〉	ワークシート(個人)
	4 問題に対する解決方法をそれぞれ考える。	7	個人	・まずは個人で考えさせることでその後の話し合いでも自分の意見をもてるようにする。意見が出ない場合、前回までのノートや資料を見るように声掛けを行う。		ワークシート(個人)
	5 各グループで担当する番号の問題について解決方法を考え、それらの解決策が自助・共助・公助・互助のどれに当てはまるものなのか話し合う。	12	班1	・自分では思いつかなかった解決策を共有させることで、多くの視点から高齢者を支援することができるということに気付かせる。		ワークシート(班)
	6 グループを変え、考えた解決策をグループ内で発表し合う。	10	班2	・それぞれの班でまとめた意見のワークシートをタブレットで写真に撮らせ、その写真を用いて他の人に説明をさせる。		タブレット

終 末	7 本授業を受ける前と後での自分の考えや気持ちの変化を記入する。	8	個人	・前と後で比較をしながら書くように指示をする。	●ワークシート 【主体的に学習に取り組む態度】 <記録に残す評価>	ワークシート(個人)
	8 本時のまとめをする。	3				ワークシート(個人)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>高齢者が安心して自立した生活を送るために、私たちは地域や社会の一員としての認識をもって、多方面から支えていくことが大切である。</p> </div>						

(4) 本時の評価

評価規準	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例文の中から問題を見だし課題を設定して、家族・地域全体として多方面から解決するためにはどのような方法があるのかを考え、表現する力を身に付けている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 超高齢社会において増加する介護や高齢者福祉などに関する課題の解決に向けて、主体的に取り組む、実践しようとしている。 	
到達基準	A	<ul style="list-style-type: none"> 課題文の中から問題を見だし、課題を設定して、家族・地域全体として多方面から解決するためには何ができるのかを自助や共助・公助・互助の観点から主体的に考え、表現する力を身に付けている。 超高齢社会において増加する介護や高齢者福祉などに関する課題の解決に向けて、主体的に取り組む、具体的にはいつどのように実践できるか考えながら実践しようとしている。
	B	<ul style="list-style-type: none"> 課題文の中から問題を見だし、課題を設定して、家族・地域全体として多方面から解決するためには何ができるのかを考え、表現する力を身に付けている。 超高齢社会において増加する介護や高齢者福祉などに関する課題の解決に向けて、主体的に取り組む、実践しようとしている。
	C	<ul style="list-style-type: none"> 課題文の中から問題を見だし、課題を設定して、解決するために何ができるのかを考え、表現する力を身に付けている。 超高齢社会において増加する介護や高齢者福祉などに関する課題の解決に向けて、実践できることを挙げている。
評価方法	ワークシート	

(5) 板書計画

学習課題		①～④の問題についての解決方法や備え			
自助					
互助					
共助		まとめ			
公助					

「ビジネス・コミュニケーション」 学習指導案

商業科 吉 福 彩 乃

1 単 元 名 第3章 ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション

2 単 位 数 2単位

- 3 単 元 目 標
- (1) ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけさせる。
 - (2) ビジネスの場면을分析し、科学的な根拠に基づいて、場面に応じて思考してコミュニケーションをはかり、評価・改善をさせる。
 - (3) ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて自ら学び、ビジネスの場면을想定して適切に思考してコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組ませる。

4 生徒の実態

素直で明るく授業に真面目に取り組む生徒が多いクラスである。グループ活動においては、積極的に参加する生徒が多い一方で、取り掛かりが遅い生徒も見られることから、日頃からの机間指導時の声掛けを意識している。

また、ICT機器の使用に関しては、出身中学校での使用頻度に差があり、不慣れな生徒もいたが、現在はスムーズに使いこなしている。

- 5 本時の目標
- (1) 論理的な思考の方法について課題に関連付けながら、思考・判断し、表現する方法を身につけさせる。
 - (2) 論理的な思考の方法を用いた分析に主体的かつ協働的に取り組ませる。

6 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけることができる。	ビジネスの場면을分析し、科学的な根拠に基づいて、場面に応じて思考してコミュニケーションをはかり、評価・改善することができる。	ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションについて自ら学び、ビジネスの場면을想定して適切に思考してコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

7 本時の展開

過程	時間	学習内容と学習計画	指導上の留意点	評価等
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶, 出席確認 ○ 前回までの確認 ○ 最終的な報告の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の忘れ物やGoogle Classroomにログインしたかを確認する。 ○ 単元の目標と演繹法・帰納法・ロジックツリー・SWOT分析・ポジショニングマップ・PPM分析についてそのメリット・デメリットを復習する。 ○ スライドは予めGoogle Classroomに掲示し, グループで復習するよう促す。 ○ 本時の目標を板書する。 	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;"> <p>本時の目標</p> <p>論理的な思考の方法をもとに鹿女子の現状を分析し, 今の鹿女子の課題を探ろう。</p> </div>		
展開	30分	<p>【グループ学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 分析方法の選択理由 ○ 分析を行う ○ 分析の中から課題を1つ選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 机間指導を行い, 進んでいないグループについては適宜声掛けを行う。 ○ 進度をスライドにて掲示しながら時間配分を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 論理的な思考の方法について課題に関連付けながら, 思考・判断し, 表現する方法を身につけている。 <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">観察シート(座席表)</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 論理的な思考の方法を用いた分析に主

				<p>体的かつ協働的に取り組んでいる。</p> <p style="text-align: right;">【主体】</p> <p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">観察シート(座席表)</p>
ま と め	10 分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のまとめ ○ 次回の予告 ○ 感想・自己評価記入 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分析方法の選択理由について、実際のビジネスでは限られた時間の中でより効率的に論理的な分析ができることが大切であることを伝える。 ○ 次回は今回の分析や選んだ課題について、情報の妥当性や信頼性に基づいて論理的に思考できたかを確認することを伝える。 ○ Googleフォームに記入するよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 論理的な思考の方法を用いた分析に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 <p style="text-align: right;">【主体】</p> <p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">Google フォーム</p>

8 本時の評価基準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
/	<p>論理的な思考の方法について課題に関連付けながら、思考・判断し、表現する方法を身につけることができる。</p>	<p>論理的な思考の方法を用いた分析に主体的かつ協働的に取り組むことができる。</p>